

栃木市防災学習資料（中学校用）

災害から身を守り、 地域の一員として行動するために

栃木市立 中学校 名前



避難所体験学習（吹上中）

小学校では、災害からどうやって
自分の身を守るかを学んできたね。

中学校では、もしも避難をした時、
避難所でどんな行動をとればよいか
を学習しよう！



災害が起こったとき、避難所^{ひなんじょ}でどのように行動すべきか？

1 避難者が困ることや不便を感じることをグループで話し合おう



被災者の要望を聞き取る

自分の家族だけでなく、お年寄りや乳幼児、妊婦、外国人、支援が必要な方など様々な人が集まっている。



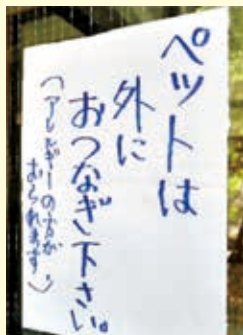
避難所の現状を伝える掲示

トイレ掃除や食事の順番などでトラブルが起こるかもしれない。



体育館で生活する被災者

避難所生活では、災害発生による不安でパニックになる人が多い。



ペットについての掲示

地震や水害がおさまっても、家屋が倒壊したり浸水したりして帰宅できない人が多く、避難生活が長引くかもしれない。



救助物資を求める行列

写真提供：(公社) 中越防災安全推進機構

2 避難所生活の中で、ボランティアとして協力できることを話し合おう

避難所生活で大切なことは、互いに何ができるかを考え、それを実行するという意識や姿勢です。

中学生の自分にどんなボランティアができるかを考えよう。



避難所を運営していく上で必要なことは？

大規模な災害が起こると、市内各地に多くの避難所が開設されます。さらに避難所生活が長期化してくると、行政に頼らずに自分たちで避難所を運営していくことが大切だと言われています。

【青森県八戸市白銀地区自主防災会の事例】

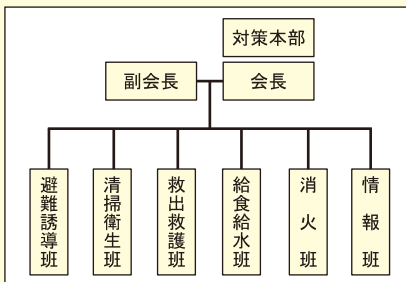
平成23年3月11日東日本大震災が発生した。避難所では地区の住民、地区外の住民、外国人の方と共に避難生活をしたが、お互いが協力し合い、大きなトラブルがなく過ごせた。皆で知恵を出し合って、即、行動にうつした。また、避難生活が長期化してきたため、自主的に3交代制で3月31日まで避難所運営をした。



白銀地区の実際の避難所の様子

(消防庁国民保護・防災部防災課 H25.3 東日本大震災における自主防災組織の活動事例集をもとに作成)

1 運営に必要な役割と仕事を話し合おう



左の図は白銀地区の自主防災組織です。「お互いが協力し合い、大きなトラブルがなく過ごせた」のは、それぞれがどのような仕事を分担したからでしょうか。話し合みましょう。

2 避難所で必要なルールを話し合おう

避難所生活では次のような問題も起こります。どのようなルールが必要でしょうか。

- (1) 避難所では、水を大切にするためか、排泄を済ませても水を流さずにトイレがつまってしまい、他の避難者との間でトラブルになった。
- (2) 避難所では、食事の後片付けもしないで、そのまま出かけてしまう人がいた。その後、自分勝手な行動をする人たちのグループができてしまい、さらにわがままな行動が見られるようになってしまった。

避難所生活では、地域で協力して自分たちの暮らしを維持していくために、**役割分担による主体的な運営や公正なルール作りが必要になるんだね。**



☆ 中学校の避難所設営訓練の様子（吹上中）



非常食の種類を確認



段ボール箱でベッドを製作



プライバシーを守る仕切りをたてる



新聞紙を使った食器作り

☆ 栃木市がおこなっている総合防災訓練の様子



炊き出し訓練



水防活動訓練

これまでの災害でも、中学生の若い力が地域の復興に役立ってきました。皆さんも地域の防災訓練に参加し、地域の一員として自分たちに何ができるかを考えていきましょう。



発行 平成29年3月
発行者 栃木市教育委員会